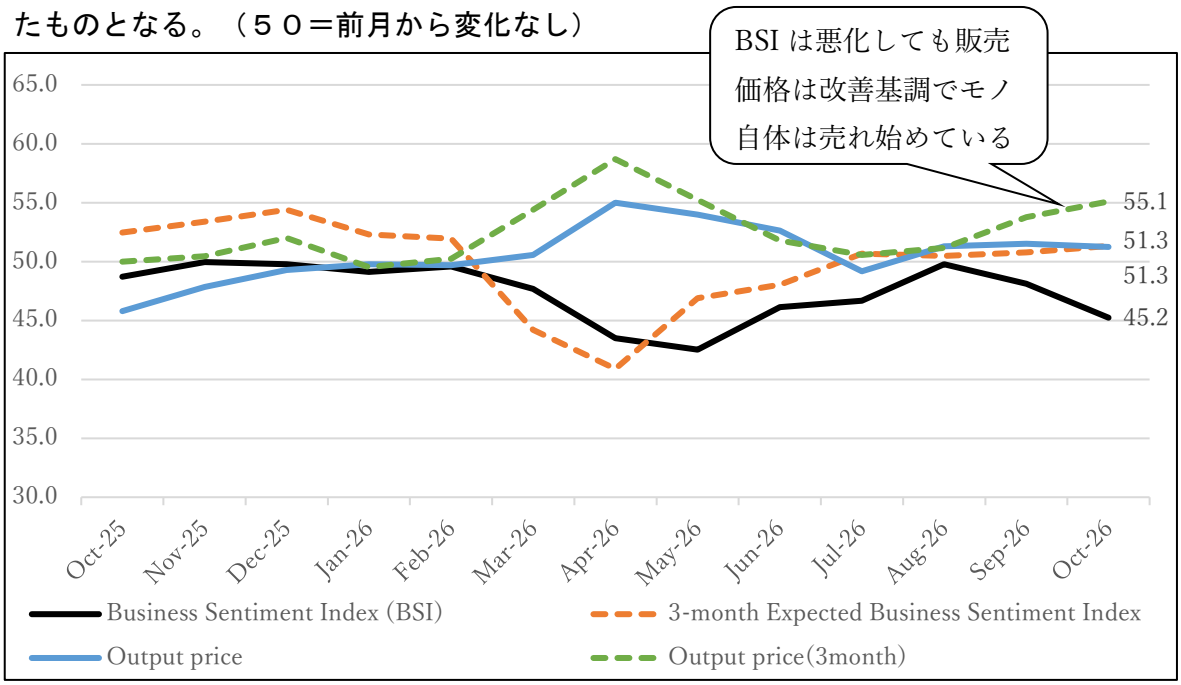
タイ経済指標斜め読み

（2026 年 11 月版）

ビジネスサポート部
加藤義人
kato@mat.co.th

■No.1■【指数データ】景況感指数

タイ中央銀行（BOT）は、１０月のビジネス景況感指数（BSI）を発表した。下グラフは、同指数の３か月後の期待値と企業のアウトプット価格と同３か月後の期待値を表したものとなる。（５０＝前月から変化なし）

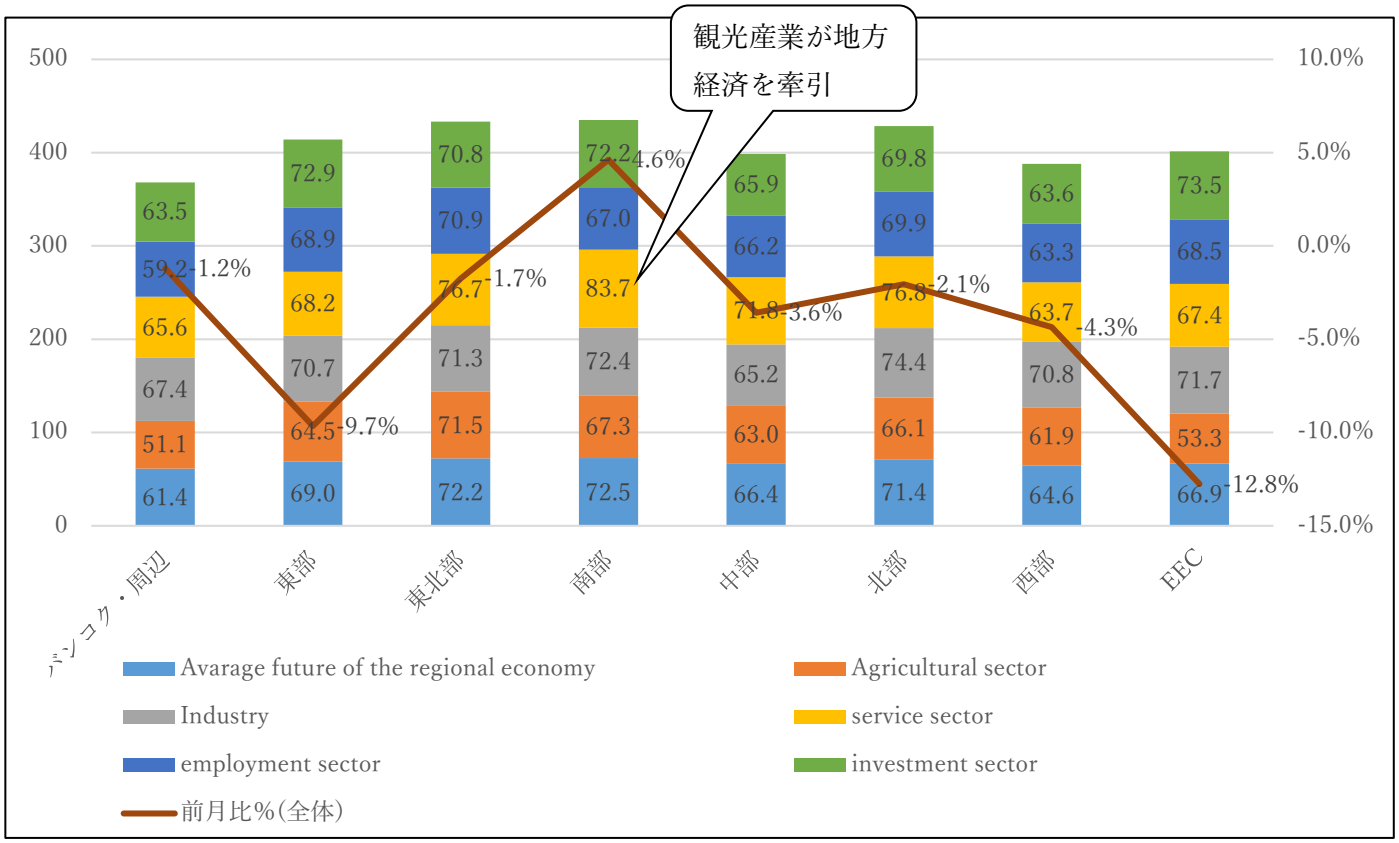


１０月のBSIは45.2になり、2か月連続で悪化となった。同３か月後の期待値は51.3になり、2カ月連続で改善となった。次にアウトプット価格は51.3、同３か月後の期待値は55.1になった。BSIに関しては、燃料費の高止まりや10月に発生した洪水被害などで景況感は悪化となった。一方、同３か月後の期待値は、観光シーズン到来にあり、外国人旅行客の増加が予測されるため、関連産業の売上げが期待されている。次にアウトプット価格だが、BSIが低位に留まるにも関わらず50の閾値を安定的に超えており、製品価格が上がっても購入が減少することなく推移していると思われる。タイ政府の経済支援策もある程度効果を発揮している事も確かだが、国民の購買は戻りつつあると見て取れる。

出所：https://www.bot.or.th/

■No.2■【指数データ】地方景気指数

タイ財務省財政政策局（FPO）は、10月の地方経済景気指数（The Thai Regional Economic Sentiment Index：RSI）を発表した。（５０＝今後半年は安定すると予測）

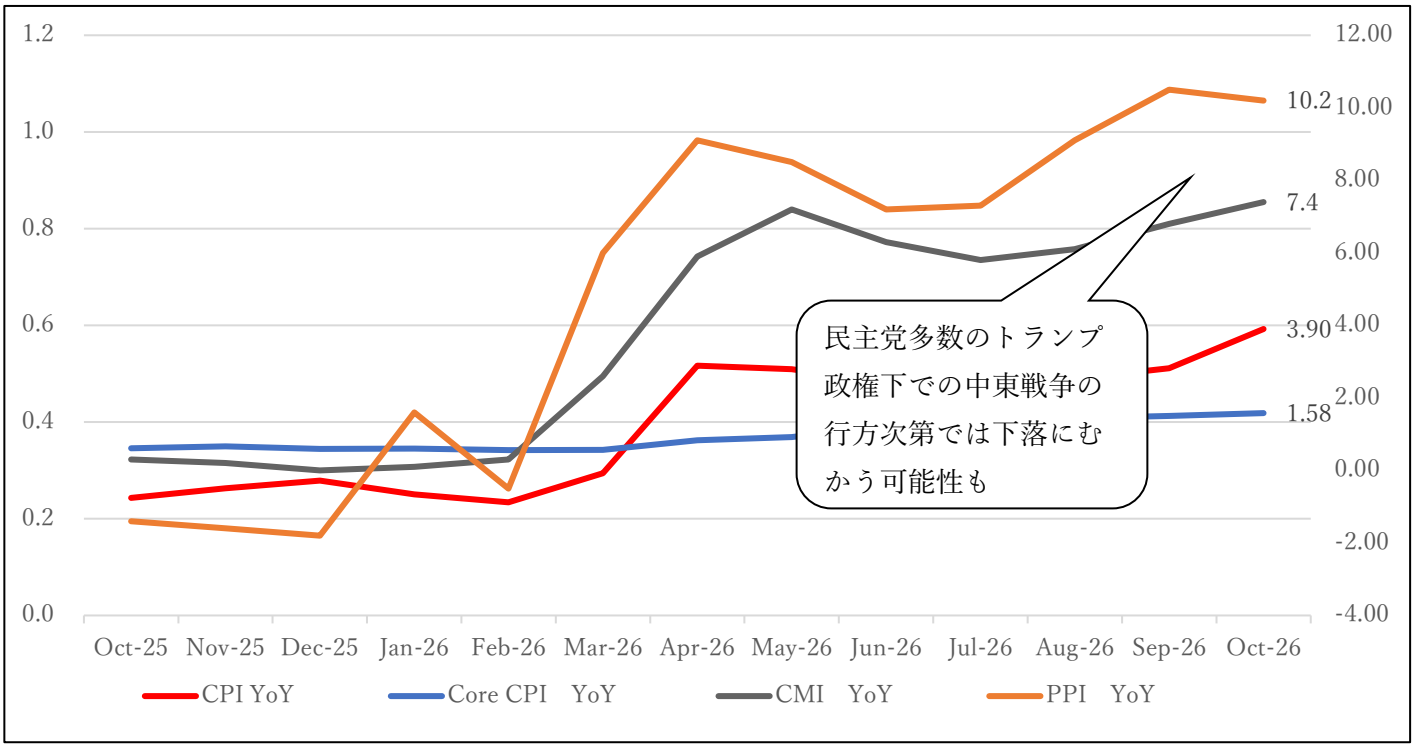


10月のRSIで最も指数が高かった地域は南部となり、前月から＋4.6%になった。同地域では、サービスセクターが83.7となり全体の指数で最も高い値となった。要因として、乾季に入る11月の観光シーズン到来に向けて同セクターが最も活動が活発になることが見込まれていることが挙げられる。次に高い地域は東北部で、こちらもサービスセクターが最も高い値を示した。要因は南部と同じである。一方、農業セクターでは全地域で低い値を占めているのが特徴的。要因としてエルニーニョ現象で高温が続き、農作物の生育に影響を及ぼしていることが嫌気されている。最後に指数上位のEECと東部地域だが、前月比でマイナスとなっている。とは言え、投資セクターでは全体で最も高い値を示していることから、引き続き堅調に推移しているものと思われる。

出所： https://www.fpo.go.th/

■No.3■【指数データ】物価指数

タイ商務省傘下のTrade Policy and Strategy Office（TPSO）は、10月の消費者物価指数（ＣＰＩ）、生産者物価指数（ＰＰＩ）、建設資材物価指数（ＣＭＩ）を発表した。（２０１９＝１００、前年同月比%）



10月のCPIは＋3.9%、コアCPIは＋1.58%、PPIは＋10.2%、CMIは＋7.4%となった。PPI以外は前月を上回る結果となった。CPI上昇の主な要因としては、燃料価格の上昇となった。11月に入り、燃料価格は一旦下げられているため、政府の支援策などが入ったと思われる。他東南アジア諸国と比較すると、タイのインフレ率は相対的に抑えられており、政府の支援策が行われている。次にPPIだが、10月に入り下降に転じたが依然高い割合を示している。これも同様に燃料価格の上昇とバーツがドルに対して下がっており、これにより原材料の輸入価格が上昇していると思われる。最後にCMIだが、これも同様に原材料・燃料価格の上昇のため製造コストや輸送コストが上昇し結果的に材料費の値上がりにつながっているとのこと。

出所：https://index.tpso.go.th/

筆者紹介：2001年にタイ日系IT企業の責任者として赴任後、バンコク日本人商工会議所、タイ邦銀支店関連子会社などで企業・経済調査などを経験し2018年MAT社に入社、現在に至る。アメリカ、香港、ミャンマー、タイなど海外在住歴は30年以上。

2026 Material Automation (Thailand) Co., Ltd. All Rights Reserved.

本データは情報提供を目的として作成されたものであり、営利を目的としたものではありません。作成時点で、MAT社ビジネスサポート部が信ずるに足ると判断した政府が発表するデータに基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。掲載内容は毎月変更されます。報道目的以外での引用・転載については当社までお問い合わせください。